

農道の雑草抑制に新しい試み



作業は小雨の降るなか、参加者が協力し合って（1月22日）



張り直しの作業中（1月28日）

農家の一番の重労働は雑草管理とも言われています。真夏の草刈りは非常に厳しい労働です。狭いところや斜面で、機械で行えるところは少なく、人の手による作業が必要になります。当地区では圃場整備の際に農業用作業道もアスファルト舗装がされていますので、他地区に比べれば管理する面積は多くはありません。

大森と呼ばれる一番北側の東西方向

大道理では柵田の斜面をシートで被い、特定の場所に芝桜を植えて、見事な景観を作り出し、近隣からたくさんのお客様を集めています。当地区ではそのような規模のものではありませんが、法面をシートで被う方式を参考にしました。大道理で使われているのは、簡単には切り取ることのできないほど厚手のシートですが、今回使用したのは一般的な「グラウンドシート」と呼ばれる



東西に両側約40m、幅は最大2.2m

が、路盤がでこぼこできれいに固定できません。業者に依頼して小型のパワーショベルで整地してもらい、再度張りなおしを行いました。まだまだ、安全上十分とはいえませんが、これからも関係者と連絡を取りながら調整を行ってまいります。

の農道は市道の接続の関係で道路両側に法面があり、その雑草管理に圃場の担当者が管理をしています。この管理負担を何とか軽減したいと検討してきた結果、この法面に雑草の繁茂を抑制するシートを張ることにしました。参考にしたのは以前に紹介した周南市大道理の芝桜による景観形成事業です。

大道理では柵田の斜面をシートで被



（柵亀井組さんの協力で整地作業が行われた）

ものです。

この時期、雑草の活動が穏やかなときに実施することにしたのですが、それでも作業の前には除草が必要でした。ロールになったシートを場所に合うように切り取り、止め具で固定しました。

快走奮闘チームハツポウ

たくさんの応援ありがとうございました

1月15日、第二回山口市駅伝競走 242チームが参加しています。

大会が山口きらら博記念公園で行われ 開会式は1月5日に、山口市小郡ふ

ました。八方原自治会主体の駅伝チー れあいセンターの体育館で行われまし

ム「チームハツポウ」も出場しました。

5区間14.7kmで行われるレー 当日は気温は低いものまですの

スは、毎年参加チームが増え今回は 天候です。1区はエースの原田裕基選



↑スタートをトップで飛び出た原田裕基選手(126番)
↓たすきを手にして中継所に飛び込む原田広文選手。



↑膝の故障を押しての原田昌通選手。快走する大本選手↓



で膝を守りながらの奮闘でした。

3区にたすきが渡ります。國田純一

選手は、このところ走り込みが十分で

きない状態ですが、懸命に4区の原田

広文選手につなぎました。

4区は三つの長い直線をつなぐ、

ペースをつかみにくい区間です。ここ

はベテランの原田広文選手が着実に進



↑3区の國田純一選手の走り方は独特のフォーム



ました。
2区は両膝の故障が治らないままの原田昌通選手です。トップでたすきを受け取りましたが、故障を抱えたままなので、無理をしない作戦でした。サポーター



レースが終わってほっと一息の記念撮影

めてくれました。
アンカーは今回初出場の大本選手です。彼は原田広文君の家族の知り合いで大学では競歩の選手で持久力は申し分ありません。実際のランではハイレベルなスピードの持ち主で、最終区の際しい戦いの中で順位を引き上げ、最終的に一般19位(103チーム中)でゴールに飛び込みました。